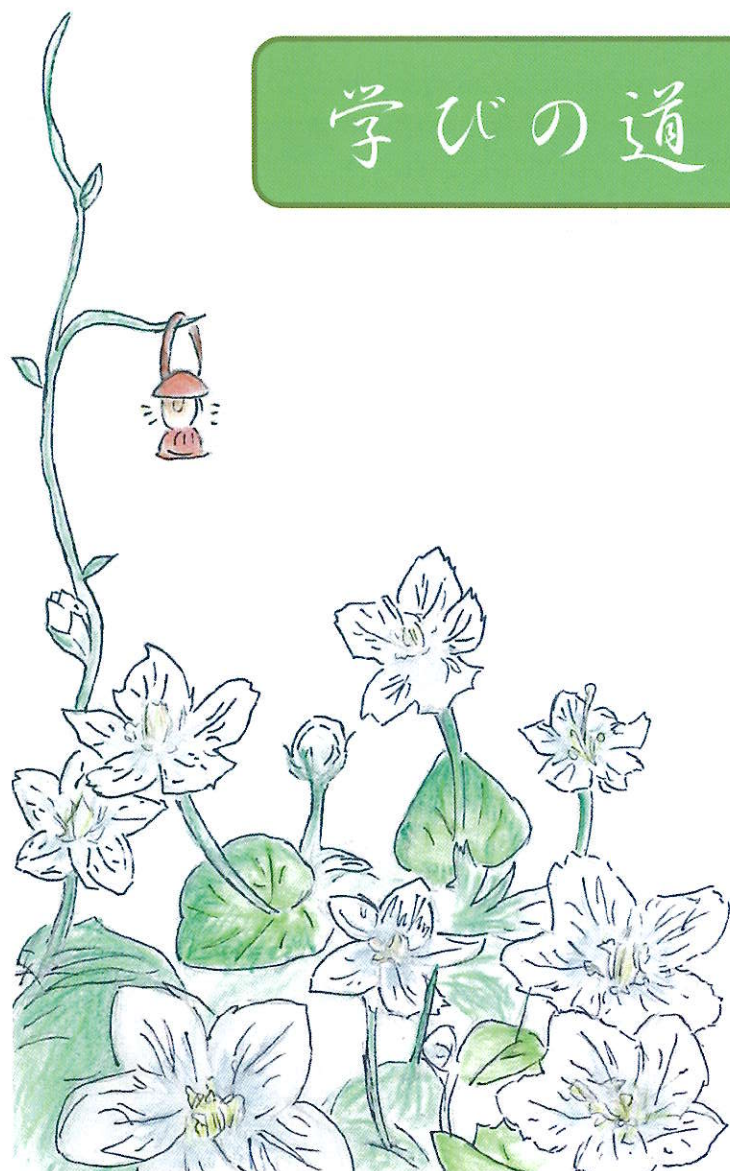




学びの道しるべ



OJI TOWN



王寺町教育委員会

このイラストは、王寺南中学校美術部による作品です。

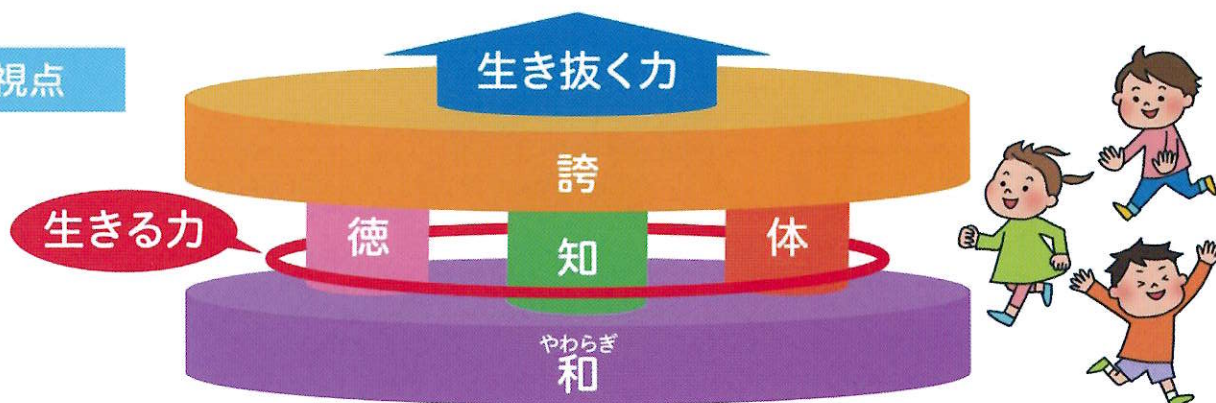
施策体系

基本理念

夢と希望に向かって輝け瞳 明日を担う王寺っ子

～ 一日生きることは 一歩すすむことでありたい ※ ～

視点



基本方針・基本施策

誇 1. 王寺を誇る心を育む

- 郷土愛の醸成と地域特性を生かした学習の提供
- 豊かな自然環境を生かした学習の提供
- 文化・芸術に親しむ機会の提供

徳 3. 豊かな人間性を育む

- 規範意識の向上
- 人権教育・道徳教育の充実
- 豊かな感性を育む教育の推進



知 2. 確かな学力を育む

- 学習環境の整備
- 就学前教育の充実
- 学校教育の充実
- 現代社会の課題を学ぶ教育の推進
- 一人一人の状況に応じた教育の推進
- 教職員の資質や指導力の向上
- 保育・教育施設間の連携強化

体 4. たくましく健やかな体を育む

- 生涯を通じた体育活動の推進
- 学校における体力の向上と体育活動の推進
- 健康の保持・増進、食育の推進



和 5. 地域とのふれあいを推進

- 学校、家庭、地域とのパートナーシップの強化
- 家庭や地域の教育力の向上
- 地域に開かれた学校づくり
- 生涯を通じた多様な学習活動の振興
- 安全・安心な環境づくりの推進

※日本最初のノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹博士から、昭和43年に王寺町の住民に向けていただいた言葉です。

夢と希望に向かって輝け瞳 明日を担う王寺っ子

【王寺町教育振興ビジョン基本理念】

～一日生きることが 一歩すすむことでありたい～

柔軟で系統性のある教育活動を実現する『義務教育学校における小中一貫教育』

- 小・中学校の教職員が同じ教育目標で義務教育9年間、一貫性のある指導を行うことにより、教育の質の向上を図ります。
- 社会の少子高齢化が進む中、異学年交流など子ども同士の交流を活発化させ、より多くの多様な教職員が子どもと関わる体制を確保し、一人一人の状況に応じた教育を推進し、夢に向かって努力する力を育みます。
- 地域の教育力を積極的に学校に取り入れることにより、家庭や地域における子どもの社会性育成機能を高めめます。

**義務教育学校における
小中一貫教育で期待できること**

学校組織力の向上

- ・小・中学校の教職員が9年間を通して子どもを育てるという意識をもつことにより、組織的な学校運営を図ります。
- ・小・中学校の教職員が、それぞれの指導方法の交流を図り協働して指導することで、授業改善や指導力の向上を図ります。

学力の向上

- ・小・中学校の教員が、9年間の目標を定め、教科ごとに系統性を整理し9年間一貫したカリキュラムを編成することで、学びの連続性を確保します。
- ・小学校教員によるきめ細かな指導や中学校教員による専門性を生かした指導のよさを学年段階に応じて取り入れることで、子どもたちの学習意欲を高め学習効果の向上を図ります。

生徒指導の充実

- ・9年間を見通した生徒指導方針の確立により、系統性のあるきめ細かな生徒指導を行います。
- また、教育相談を継続的にを行い、組織としての生徒指導体制の充実を図ります。

9年間の系統性のある教育活動の実現	後期（発展期）	教科担任制	9・8年生	○義務教育のまとめとして、中期までに学んだことを発展させる指導を行います。 ○子ども一人一人の個性や可能性を高める時期であり、各個人のもつ能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培うとともに、社会の一員として社会に参画する力を養います。
			7	○一部教科担任制による専門性の高い指導を通して、前期で学んだことを充実させ、活用できる力を培います。
	中期（充実期）	一部教科担任制	6・5年生	○前期で学んだことを充実させるとともに、子どもたちが体験する段差に配慮し、小学校から中学校への接続をより円滑にします。
	前期（習得期）	学級担任制	4・3・2・1年生	○学級担任制によるきめ細かな指導を通して、基本的な生活・学習習慣の定着を図り、基礎的な学力の習得に向け繰り返し学習を徹底します。

**義務教育学校の強みを生かした
教育の推進**

9年間の系統的な各教科等カリキュラムの作成

- ・学習指導要領に基づく9年間を見通した系統的、計画的なカリキュラムを作成し、一貫性のある指導を行うことにより、学力の定着、伸長を図ります。

小・中学校教員による相互乗り入れ授業の実施

- ・中学校の専門性を生かした指導を通して、学びの充実や活用できる力を養います。
- ・小・中学校の教員がチーム・ティーチングを行うことにより主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を展開します。

異学年交流による豊かな人間性と社会性の育成

- ・9年間という幅の広い年齢の子どもたちが共に生活することにより、縦割り活動など異学年交流の活発化を図り、豊かな人間性と社会性を育成します。

特色ある教育

グローバル化への対応（英語教育の推進）

- ・英語教育の系統的なカリキュラム作成
- ・中学校外国語科教員の小学校への乗り入れ授業の実施

**ふるさと王寺の理解と
愛情を育む教育の推進**

- ・9年間、取り組む活動を通して、「王寺を知り 王寺について考え 王寺に関わる」ことを目標とする『和（やわらぎ）』プロジェクトの推進

情報化への対応

- ・プログラミング教育・ICT活用の推進、リーディングスキルの育成

心身の発達段階に応じた学年区切り（4・3・2制）	
義務教育9年間の一貫した教育課程を 「1～4年生の前期（習得期）」 「5～7年生の中期（充実期）」 「8・9年生の後期（発展期）」の三つのまとまりで編成します。 特に、小学校から中学校への円滑な連携・接続を図るため、中期（充実期）の指導を重視します。	
特別支援教育の充実	
特別な支援を要する児童・生徒一人一人の障がいや発達段階に応じた系統的、計画的な個別的教育支援計画・指導計画を作成し、小・中学校教職員の共通理解のもと、9年間を見通した教育を行います。	



義務教育学校（小中一貫教育）ですすめる教育活動

子どもたちの活動

特色ある教育

グローバル化への対応 （英語教育の推進）

9年間の系統的なカリキュラムに基づき、1年生から英語教育を進めます。特に、5・6年生からは、専科制を導入し、より専門性を高めた指導を行います。また、9年生での英検3級以上取得をめざします。

〔例〕
○5年生以上は、専科教員による指導
○全学年にALTを配置
○学校を英検の準会場とすることによる受験機会の保障

「和（やわらぎ）」プロジェクトの推進

ふるさと王寺の理解と愛情を育む教育として、王寺の地理や歴史、自然などを学び、王寺町の一員としての関わり方を考え、将来にわたり、ふるさと王寺を愛し誇れる人間の育成を進めます。

〔例〕
○「王寺を知る」 明神山登山、『聖徳太子と愛犬雪丸のものがたり』の活用、校区探検、『やさしく読める王寺町の歴史』の活用
○「王寺を考える」 町長出前授業、大和川防災教育（'57水害）、みちびきの像の学習
○「王寺に関わる」 一日町長、中学生議会、防災訓練、クリーンキャンペーン

情報化への対応 （プログラミング教育・ICT活用の推進、リーディングスキルの育成）

プログラミング教育

小学校からプログラミング教育を系統的に行い、論理的思考力を高め、情報活用能力の育成を進めます。

〔例〕
○早期からのICT機器活用

AIを活用した 個別最適化学習

スタディ・ログ（学習履歴）のAIによる分析を活用して、一人一人に適した学習を行います。

〔例〕
○5年生の算数で実施
○レコメンドシートの活用

※レコメンドシートとは、AIが分析した結果を生かした個別の学習教材のことです。

読解力の向上 （リーディングスキル）

自ら課題を設定し、問題解決に必要な情報を様々な方法で収集・選択・比較・分類して、自分の考えを表現し深めていく力を育みます。

〔例〕
○読解を意識した学習の実施
○リーディングスキルテストの活用

メディアセンターで 探究学習

ICTや図書などの様々な情報や資料を組み合わせ、子どもたちの好奇心をかき立て、自ら課題を見つけ解決していく学習活動の充実を図ります。

〔例〕
○インターネットを活用した調べ学習
○タブレット型PCを活用したグループ学習

個別指導の充実

時間割編成を工夫し、一人一人のニーズに応じた学習を行います。

〔例〕
○学んだ内容のより発展的な学習の個別指導
○授業で分からなかったところや苦手な学習の個別指導

異学年交流で 心の教育

9歳という年齢差を生かした異学年交流を行い、「あこがれ」や「思いやり」の心を育みます。

〔例〕
○異学年による合同授業
○異学年での合同給食
○たて割りの活動（学校行事）
○児童生徒会による集会活動

豊かな人間性と 社会性の育成

新設されるランチルームを活用し、食事を共にすることを通してコミュニケーションを図り、人と人とのつながりを深めます。

〔例〕
○異学年での合同給食
○地域の方々との会食
○ボランティアの方々との交流

5年生から 部活動に参加

5年生から様々な部活動に参加し、共に活動することを通して、体力の向上や豊かな情操を育み、責任感や連帯感を培います。

〔例〕
○選択制で多様な体験を実現

義務教育学校（小中一貫教育）ですすめる教育活動

地域とともにある学校

コミュニティ・スクール （学校運営協議会制度）の設置

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは、学校と地域住民等が目標やビジョンを共有し、力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」を実現するための有効な仕組みです。

〔例〕
○新設される「地域交流室」を活用し、学校・家庭・地域がお互いの課題や情報を共有し、実態に応じた「地域とともにある学校づくり」を進めるため、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を設置



地域人材の活用

学校・家庭・地域がより一層の連携を深めて、多彩な人材に学校教育を支援してもらうことで、より質の高い教育内容の提供に努めます。

そのために、学校支援コーディネーターや多数のボランティアの協力により、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、地域全体で子どもたちを育てる体制をより一層充実させます。

〔例〕
○ゲストティーチャー
（キャリア教育、防災教育、教科指導等）
○部活動指導員
○学校支援ボランティア
（学習支援、学校行事補助等）

プラスわん 「あいさつ+1」運動の推進

子どもたちの規範意識の向上を図り、青少年を非行や犯罪から守るため、さわやかなあいさつが飛び交うまちをめざします。

〔例〕
○児童会・生徒会によるあいさつ運動
○王寺工業高等学校との連携



雪丸サポートスクールの充実

教職員経験者等、地域内の教育経験が豊富な人材がサポートスタッフとして関わり、放課後や長期休業日などを活用して、4年生から9年生の児童生徒を対象に一人一人の学力と学習意欲を高めます。

〔例〕
○個に応じた指導（個別最適化学習）
○学習習慣の確立



習得期（1年生～4年生）

充実期（5年生～7年生）

発展期（8年生～9年生）

学び

主体的な学びの基礎を身に付け、
自分のことは自分でできる子ども

主体的に学び、自分の考えを積
極的に表現できる子ども

自分の個性や能力をいかした生
き方を探求し、学び続ける子ども

拓く

自律

自分のことは自分で行い、苦手なことにも努
力して取り組むことができる子ども

やろうと決めたことややるべきことを最後まで
粘り強く取り組むことができる子ども

何事も前向きにとらえ、高い目標を立て強い
意志をもって取り組む子ども

挑戦

身の回りのことに興味をもち、自分がやりた
いことに全力で挑戦できる子ども

自分が決めた目標に向かって、失敗を恐れず
に前向きに挑戦できる子ども

自分の生き方に対してビジョンをもち、粘り
強く挑戦できる子ども

協創

友だちとつながりあい、協力できる子ども

誠実に自分の気持ちを伝え、思いやりをもっ
て接することができる子ども

人の話を深く聴き、多面的・多角的に世の中
を見ることができる子ども

9年間の系統的な カリキュラムの作成

『学びの連続性を確保』

各教科において、課題がみられる学習内容を
整理したカリキュラムを作成し、各学年の
指導方法などを統一し反復することで、子ど
もたちの理解がより深まる授業を行います。

〔例〕

○子どもたちにとって、全国的に難しいとされている
算数・数学の「関数」において、5年生から9年生ま
で繰り返し丁寧に学習が行えるようにします。

『系統的、計画的で一貫性のある指導』

各教科で共通する学習内容を反映した系統
的・計画的なカリキュラムを作成し、指導方
法を統一することで、子どもたちの理解を確
かなものにします。

〔例〕

○7年生で学習する数学の「1次式の応用」と理科の
「水溶液の性質」で学ぶ水溶液の濃度計算を、同じ考
え方で解けるよう、統一した指導を行います。

全教職員がつながる指導

相互乗り入れ授業による 学力の向上

『中学校の専門性を生かした指導』

中学校の専門性を生かした指導を取り入れ
ることにより、子どもたちの学習意欲や学力
の向上を図ります。

〔例〕

○中学校の理科教員による科学実験の指導や体育教員
や美術教員による実技指導を行います。

『小学校教員によるきめ細かな指導』

小学校教員のきめ細かな指導を生かすよう
に中学校教員と協働してチーム・ティーチ
ングを行うことで、一人一人に応じた学習を
実現し、主体的に学習する態度を育成します。

〔例〕

○チーム・ティーチングによる指導を行います。

生徒指導の充実

『9年間を見通した 生徒指導方針の確立』

めざす子ども像などを全教職員が共有して
教育活動を行うことで、学校生活や学習のき
まりを定着させ、9年間一貫した指導を徹底
します。

〔例〕

○子どもたちの情報の一元化を図ります。
○迅速な対応と連携をします。
○9年間を見通した生徒指導方針を作成します。

教育相談の充実

『教育相談を継続的にを行い、 安心して相談できる体制の充実』

子どもたちの状況や子どもたちが発するサ
インを見逃さないよう全教職員で把握し、9
年間継続的に共通理解を図ります。

〔例〕

○年間計画に「学校生活アンケート」など教育相談の
機会を位置付けます。
○生徒指導主事・主任を中心に、スクールカウンセ
ラー・心の教室相談員などの専門家や教育委員会をは
じめとした関係機関とも連携して組織的に対応します。

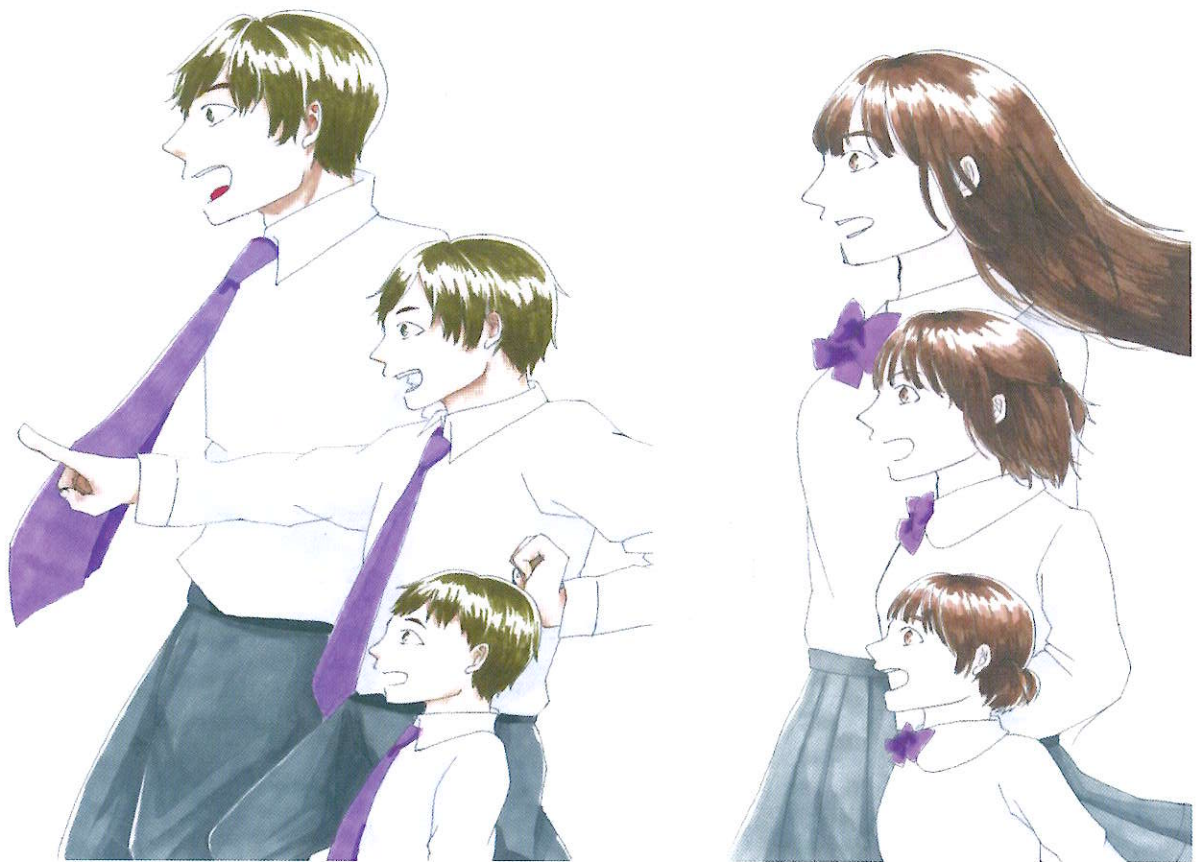
特別支援教育の充実

『9年間を見通した 特別支援教育の実施』

特別な支援を必要とする子どもの中には、
小学校から中学校への進学に際して急激な変
化に伴い、強いとまどいや混乱を感じ、学校
生活への不安などを引き起こすことがありま
す。9年間一貫した義務教育学校となること
で、小中間の段差が解消され、子どもの精神
的・身体的負担を軽減することができます。

〔例〕

○特別支援教育コーディネーターが中心となって、家
庭や関係機関と綿密な連携を図り、小・中学校教職員
の共通理解のもと、特別な支援を必要とする子どもた
ち一人一人の発達特性や発達段階に応じた系統的・計
画的な個別的教育支援計画・指導計画を作成し、一人
一人の子どもに応じたきめ細かな合理的配慮のある支
援を9年間行います。



このイラストは、王寺中学校美術部による作品です。

王寺町教育委員会事務局義務教育学校設置準備室
〒636-0002
奈良県北葛城郡王寺町王寺2丁目1番18号
電話 : 0745-72-1031
E-mail : gimukyou@town.oji.nara.jp